

平成23年10月24日

各小・中学校教職員 各位

小田原市教育委員会
教育長 前田 輝男

通知表作成時の対応について

＜教育長からのコメント＞

昨年度・今年度と、2年続けて通知表の誤記入の事故が発生してしまいました。

同じ教職に携わる者として、このような事故が発生したことを残念に思うとともに、悔しく悲しい思いであります。

今回の件により、子どもたちや保護者、そして社会に対して、心の糸、信頼の糸が失墜することは避けられない事実であり、信頼と信用を取り戻すには、大変な時間を要するものと思います。

その回復に向けて、全教職員は、指導から評価に至る一連の教育課程の実施に、強い責任感と使命感を持ってあたるとともに、今後、このような事故が二度とあってはならないことを強く認識し、「自分には間違いがあるぞ」といった危機感を持って、目前の子どもたちの姿を思い浮かべながら、正確な通知表の作成、並びに、チェック体制の強化に努めてください。

小田原市教育長

＜通知表作成時のキーワード＞

- ☆ 【使命感】 担任（担当）の管理する資料は、**正確な**ものであること。
- ☆ 【責任感】 担任（担当）の管理する資料から原簿に転記するときは、**慎重**に行うこと。
- ☆ 【危機感】 完成版は、目前の子どもたちの姿を思い浮かべながら、**複数**で再確認すること。

＜今後の対応＞

- 1 「通知表の誤記入ゼロ」に向けて、**全校で、通知表の総点検**をする。管理職と担任が、学校で保管されている前期の通知表を11月8日（火）までに点検し、市教育委員会に報告する。
- 2 通知表作成時の意識向上に向けて、教育委員会の指導主事が、今後1週間以内に全校を訪問し、教育長から全教職員宛の注意喚起文書（本書）を元に、**直接教職員の指導**にあたる。
- 3 通知表作成時のチェック体制の強化に向けて、教育委員会が、専門家を招いた**通知表作成委員会**（仮称）を立ち上げ、12月までに、チェック体制の再検討やチェックシートの作成を行い、その検討結果を各校に提示していく。
- 4 最適な通知表作成ソフトの導入に向けて、現在使用しているパソコン・ソフトでよいかどうかを検討するとともに、自動チェックができる機能のある**市販パソコン・ソフトの導入を含めた検討**をしていく。